夕刊 磐城新聞
八月二十五日發行
（日曜祭日翌日休刊）

超高速度の小說渉獵（卅）

赤井嶽男輯錄

『孤城の美姬』

深草春彦作

その一齣（承前）

その藩主へ輿入れするのも間近かだと聞く、公方樣の姬、絕世の美人と巷間にまで傳へられてゐる靜葉姬のことも思ひうかんだ。

その靜葉姬に懸想し、兄備後守を排してまで戀と名とを得ようとする野望貪慾な大學のことを思つて見た。そして更に大學の片腕であり邪智旺な邊見龍藏や忠誠無比の家老佐田將監、同じく近侍頭古津隼人、それらの人々の渦卷き返す樣が次から次へと思ひ上つて來ただが、久馬は、家老の佐田と古津隼人の二人の顏を見知つてゐるだけで、後は總て未知の人々だつた。しかも江戶を離れて遠く何百里、その未知の世界へ、重大の任務を背負つて飛び込んで來たことの冒險さを思ふと、興味はいつか失せて危險と不安とがひし〳〵と身內に喰込んで來た、どうなるだらうとも思つて見た旅の假初のつれづれに思ふのはこの二つだけだつた。

いくつもの驛路を過ぎ、旅の日を重ね、徐々に目的地へ近づく每に、不安は濃くなつて行つた。

中仙道を榛名、淺間の峰を仰ぎつゝ信濃路へ、桝形から北國路へ折れ、越後を廻つて越中へ入り、憂き日憂き日を重ねて福光の町へ通り着いた。

後は高窪往來を過ぎれば加賀の國へ入るわけ――加賀へ入ればもうあと一と息で能登へ、大乘寺へ！。

久馬は疲れた足をなほ踏みしめて、高窪街道も走破した『越中、加賀國境』の木柱も疲れた足を幾分か輕く覺えさせた。

東原、脇原、淸水谷、小原谷とつづら折りに山間を行く寂しい道ばかり。

と久馬は立ちどまつた。

カバ、カバ、カバ……馬蹄憂々みだれ音。

『あれ――』絹を裂く女の悲鳴。振り返ると今過ぎて來た彼方から、膝もあらはに跨つた女を乘せて、奔馬がくるつて走つて來る。一歩、馬が足を踏み外せば馬も人も千𠀋の谷へ。

『おゝあぶない』

久馬はパッと奔馬の前に立塞がつた。馬は前足を擧げて立あがる。

途端――上なる女はころ〳〵と轉落する。

『危い』

飛鳥の如く馬腹を掻いくぐつて女の襟髮を掴む、馬は前足を外して谷へ眞逆さまにド――ッと落る。

『あッ』女はそのまゝ昏倒――總て一瞬の出來ごとだつた。

『危ない、今一瞬の處であつた』

久馬は思はず呟いた、事實久馬の閃影的活躍が無かつたならばこの女も馬も同樣谷底深く…、常闇の谷へ葬られる處だつた。

『危かつた』

久馬はもう一度呟いて女を見た。

『うむッ』

久馬はうなる樣に驚きの眼を見張つた。山深く人影淡きこの里に想像だに出來ぬ美女である。

かたく唇を結んで眼を閉ぢた眞ッ白な顏がやゝ蒼白を帶び、亂れ髮がばらりと下つて、凄い程に美しい女だつた。

久馬はまたうなつた。背中へ拳を當て『えい』と一と息いれた。

『あッ！』と女が叫んだ。途端に久馬はハッとした。

『おゝ』

と久馬の方か一聲驚きの叫びを上げた。

日常吟（一）

島田忠夫

○千葉にて

暑しあつしと口ぐせに云ひて夕べとなれば命やすらふ

友の宿の庭をおほへる葡萄葉に青き實こもる夏を來にけり

宿の庭のせまきに打てる水にさへ命やすらふこの夕べかも

夜の街にいで來りつつわが足は植木市あるとほりに向ふ

銀杏坂（童謠詩）

原田小太郎

銀杏の枝が
ぬつとでて
枝の間に
空がある
田圃が青く
見えました
くねつた畦も
見えました
遠いお寺の
鬼瓦
鳩がしうじう
舞つてゐる。

時代警語

○妾は少年の戀人、中年の眞友、老年の養護者なり……（ベーコン）
○快樂の世界は要するに妻に存す（ノールス）
○妻を賤むは自ら賤むなり……（西諺）
○家內の不和は貧乏神の巢窟なり……（英諺）
○姑は曾て嫁たりし時を記憶せず…（西諺）
○謙愼なる妻は神の賜なり……（一書）

拈華微笑

理事者と組合間の『暗礁』は築港の一大禁物
◇
斷然國際的の手腕を發揮した發動機の頭がヨシ田技師。
◇
踊りの町へ自動車乘り入れ禁止らしい
◇
昨投槍子の得意思ふべし
◇
猫いらず懷中の縊死。死すとも鼠を眞似ぬ意氣らしい
◇
盆に直面し甕底も天地も遂に秋冷を覺ゆ
○……○

8月26日

△小笠原吉次翁南米移住。北海道の人、九十一歲の高齡を以て一族四十餘人を伴れ南米移住の爲此日東京驛出發、途中にして病む（大正八）△江戶開府三百年祭を行ふ（明治二二）△森川許六歿す、芭蕉十哲の一人、書を狩野安信に學び芭蕉に敎ゆ、晚年瀨病となり人に面會せず只風月を樂しむと云ふ（正德五）△英日最初の條約（一八五八）△遼陽の大會戰（明治三七）△南京火藥庫爆發損害五千萬元と稱せらる（昭和四）

一日一禪

○千古金沙灘上水
琅琅猶作誦經聲

講談 元祿名妓傳

小巴井小巴演
（宮野恒彥畫）
一五九席

けれども鳴右衞門少しも恐るる色無く、寺尾彌左衞門をジロリと睨んだのみにて、再び ○『玉吉 玉吉は何うした、最前預けたものを早く……』と怒鳴り立てると、其聲に應じて後の方の襖を蹴開き ○『大賊鳴右衞門、鍋島の家老鍋島采女取方に向つたり、米二千石を我船と諸共に奪ひ取つた奇怪の曲者、其處動くな！』と立出でましたのは、名こそ采女と改まつたが大アバタで二目と見られぬ無男、花扇は一目見るより。花『お前は下田沖の龍神丸で、當の花を無慘に手込めにした鍋島益千代、私の顏はヨモ見忘れは致すまいドノ面下て此處へ出なんした武士の皮は着て居ても犬猫の畜生にもをとつた根性の人、大事の大事の鳴樣は我命に代わて寺尾の旦那にお渡し申すところだ、引き込んで居て指でも嘲ゐて見て居なまし、指一本でも鳴樣にさしたものならお前の奮惡を一々並べて寺尾樣から御町奉行へ申上げて頂くが、それでも後悔はありんせんか』と長煙管を杖にして屹と益千代に詰寄つた 益『ヤゝツ、おまへは千代が崎から身を投げて死んだ筈のお房、今全盛を叫はれる花扇太夫となつてゐたか、是りやア歩ぢやないか』拔いた刀を擔いでヒョロ〳〵と跡ずさり、目をパチクリとさせてゐるばかり、益千代に付いて來た唐犬の藤右衞門も聊か拍子拔けがしたが、根が苦勞人だけあつて忽ち此場の場面から花扇の志を押しはかつて消えるが如く立去つたのは流石に身の程を知つたのでございます、花扇は鳴右衞門に向ひ涙を拂ひ 花『妾が阿なたをお役人の手に渡すと云ふのは、何ぼう辛いことざませう勘忍していさゞよく御用になつて下さんせ、妾の心は最前からの話しで奧の奧をも知りいしたらう、なに事も運命ざます、天に逆らひ道にもどりいして、生てゐて人の生甲斐がありいせう、それは鳴樣も妾も同じことざます、斯んなことは妾が申す迄もありいせんが、言はでは今夜の有樣が勝に落ちいすまい、どうか妾の身になりいして、勘忍する許すと一言言つて與んなましよ鳴樣よう』とワッと許り其場に泣き伏した、鳴右衞門ニッコと笑ひ、鳴『イヤ分つた、其ちが思ひ餘つて此處置に出たのは悉く分つた若しそうで無かつたとすれば手下の者も廓內に五十から伏せてある、天下の役人がいくら十手でおどかしたから迚十人二十人てに掛けて切拔けて出るのになんの雜作も無いのだが、花扇の立場を察して花を寺尾彌左衞門に持たしてやる、天の綱は恢々として四はうに張られてゐる、何時かは其の綱に引つ掛るは當然、只時期が早いか遲いかの違ひだけ、惚れた女の心盡しに何で我意ばかり通せるものかサア立派に召捕つて與れ海賊の張本鳴門鳴右衞門に繩を打つて與れ』ドッカり大あぐら、我と我がてを後ろへ廻し目をつぶつて伏目となつたのは、如何にも年貢の納め時と悟つた體でございます、彌左衞門尙も油斷せず彌『惡場所を騷がせれば綽名も高くなり、天命を知つて名乘つて出るものには毒の毒のこともある、夫是を思つて彌左衞門、態と御用聞きも召連れず只一人罷向つたが、覺悟の體神妙の至り井筒屋に捕物あり等とは世間へは誓つて吹い聽させぬ、サア我等と同道せられよ』と天下の法によつてお繩を打ちました、繩は打つには打つたが人目を憚るため、駕籠をよんでそれに乘せ、ここで鳴右衞門を町奉行の役宅へ引立てる器量を下たのは鍋島益千代、花扇に罵られ鳴右衞門が引立てられるのを除そに見て立つには立たれず目を白黑…花扇はそれを尻目に掛けて玉吉、善兵衞等と共に三浦屋へ立戾りましたが、扨て花扇の身は如何相成まするや跡一回で讀み切りと仕ります。

ラヂオ

仙臺JOHK …廿六日（水曜）…

△前六、〇〇A ラヂオ體操
△六、三〇A 夏期英語講座（初等科）武井亮吉
△九、〇〇A 氣象通報
△九、一〇 料理獻立 一、ライスカレー 二、ウォーターメロン 菊地貞子 日用品値段
△一〇三〇、A 夏期講習（洋服補綴）高木美代子
△正午 A 時報
△後〇、〇五A 隆笛 一、三重奏 二、獨唱（町田嘯章作曲）三、三重奏 磯野茶章 外十二名
△〇、四〇A ニュース 氣象通報 告知事項
△二、〇〇A 健康講座（姙婦に起り易い病氣と其手當）杉山伸
△三、四〇A 氣象通報
△四、〇〇A ニュース
△五、四五 今晚の番組豫告
△六、〇〇A（子供の時間）パイプオルガン（日本橋三越より中繼）
△六、三〇A 趣味の科學知識（精神の遺傳と優生學生物內部環境としての血液）醫學博士林操
△七、〇〇A ニュース 氣象通報 告知事項 番組豫告 生繭相場
△七、三〇 講演（東北の童謠に就て）白鳥省吾
△八、〇〇B 義太夫（伊勢の音頭戀寢刃）竹本錣太夫
△九、〇〇A 浪花節（俠客三日月）一心亭辰雄
△九、四〇 時報 ニュース 氣象通報 番組豫告 告知事項

內科、小兒科 花柳病科 入院應需
藤沼醫院
平町紺屋町 電話平長五〇七番

岐阜提灯特賣 十錢ヨリ壹圓七十錢迄
中元御贈答用品各種 御利用下サイ……
田町 平マーケット 電話六〇三番

御中元 バーゲンセール 特賣
小合好品	
シヤツ	
クレツプ	20錢
リンネツト	27錢
ボイル	1.20錢
タオル	
3本入	18錢
最上敷布	40錢

王の肌石鹼 半打入 五十五錢
ハンカチーフ 一打入 85錢
短靴下 最上品 70錢
モリタヤ洋品店 電353番5丁目

內臟外科 外科一般 花柳病科
安齋外科醫院
入院隨意 自炊の便あり
平町田町赤心堂病院跡（電話四七五番）
看護婦募集

貸切ノ御用命ハ イツデモ眞先（マツサキ）ニ（松崎（マツサキ）ニ）
三九二（ミクニ）タクシーへ（デンワ、ミクニ）

夜間診療
胃腸 十二指腸病 內科專門 內科部
梅毒 淋病 皮膚病 婦人病 專門 外科部
松村胃腸性病科醫院（平南町電話一〇七番）

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント特約代理店
金物問屋 和洋銅物 （久） 釜屋商店
磐城國平町五丁目 電話九九番 振替貯金口座東京一〇九五六番
確實敏捷は（久）の生命なり

度量衡計量器
吸入用酸素吸入器
酸素
關內藥局

一額半價市 安賣
舶來生地メニスカス近眼玉 一組一圓拾錢
優等品白生地栗山近眼玉 一組六十錢
新メニス玉スドーシ イロイロ 白色 イロメガネ 各一組四十錢
五令番と廿五番セル卷 三十五錢ヨリ
クローム製淵 三十錢
理想のメガネ正十八金セル卷 玉入 八圓四十錢
大形絹天張眼鏡入サツク 十二錢
精幸堂時計店 平町
才槌小路キクチ自動車店の向

夏服
◇輕裝上衣 黑セル3圓50錢より カシミヤ7圓80錢より
◇白麻衣 1圓40錢より
◇ヅボン 白セル2圓30錢より パービス2圓50錢より
輕快な夏服の季節となりました。スマートな新製品が豐富に取揃へて御座ひます。
平二 あかや洋服店 電203

耳鼻咽喉科專門 日本醫大院長醫學士 鈴木正男
齒科口腔外科 日本齒科科長醫學士 鈴木喜政
下谷區入谷町二九一 入谷改正通り東交番前
鈴木醫院

問題解決の重心たる 町と組合が反目
魚市場經營の爭奪で 暗礁に乘り上げた四倉漁港

漁港問題の紛糾から弱り切つてる四倉町では昨二十四日町會を招集し漁業組合からの申出に係る

地元負擔十八萬六千圓中漁業組合に於てその半額を負擔し之れが償還方法は將來組合に於て魚市場を經營し之れより生ずる水上げの三分を之に充當する事

の承認に就て協議したる結果町としては町負擔金の財源捻出上斷然之の申出でを拒絕し町獨自の立場から魚市場を經營する事の決議をなし其旨を組合側に通告するに至つたので從來輿論喧囂の裡に在り乍ら常に唇齒輔車の關係に立つてゐた町と組合との提携は茲に完全に決裂の結果となつたが、右の回答に接した組合では此際全町の平和を犧牲として迄も起工を急がねばならぬと云ふ町の態度には從來投せられたる運動費問題其他之の際之れが卽行を必要とする何等かの事情が伏在するでは無いかと云ふ一種の疑惑的見解を持するに至り今二十五日役員會を開催し最後の態度を決する事となつてゐるので四倉漁港の修築は問題解決の中樞をなす兩者の正面衝突から一層の硬化を來し前途更に暗澹たる情勢となつた

下旬であると

平運轉手會 近く創設決定

平運轉手會設立協議會は昨二十四日午後八時から平消防組ポンプ置場階上で開催協議の結果新設に決定會則制定其他準備中

癩療養資金 協會の依頼で 平署で寄附募集

財團法人癩豫防協會では全國一萬數千人の癩患者中收容患者僅か三千人で他は何れも不攝生な極めて薄倖な立場に置かれてある現狀に鑑み國立療養院を新設すべく全國より資金を募集する事となり今二十五日平署へ資金調達方を依頼して來たので同署では夫々斡旋する事となつた

遊子の心を傷ましむる 物寂しい秋は竟に來た
◇＝昨日來の雨一氣に殘炎を洗ふ

人間からも草木からもひどく待望されたお濕りは昨日の午前から遂々物になつて夕方からの本降りは永い間續いた殘炎を一氣に洗ひ去つて久方振りの凉しさを味はせた。先月中の霖雨にうつて變つた天氣續きで各農村では雨乞ひをする始末だつた丈けに農作物にとつて千金の雨だと云はれてゐるこの雨があがれば末だ一寸の間日中は暑い事もあらうが之れ迄の樣な事はなく日一日初秋の凉しさが身に泌み出すは勿論雨でもあれば急轉して寂しい秋の中心へと突き入る事は曆の上から觀て當然の成りゆきである天の色、風の聲、轉た遊子の心を傷ましむる秋の風物は暑い〱と云つてる裡に昨今の雨を轉機として今や目前に運んで來た、今年も秋である

都市對抗野球に 平倶選手が出場
ベストメンバーを組織し 廿九日郡山へ

福島、郡山、若松、平の縣下都市對抗野球試合は來る二十九日郡山市營球場で行はれるが主催者側よりの勸誘で平倶樂部では織田(安)氏を主將に左の如きベストメンバーを組織し堂々遠征すべく目下磐中グラウンドに於て猛練習を行つてゐる

投	捕	一	二	三	左	中	遊	右
小澤	坪內	熊	織田(安)	井	原坂	國野	石井	織田(榮)

礦山庭球
磐城、入山、古河の 優秀組が參加
廿八日の大會に 必勝を期して出仙

仙臺鑛山監督局主催第五回東北鑛山庭球大會は來二十八日仙臺女學校コートに於て開催さるるが磐城各炭礦からは左記三社八組が出場健闘する筈、前回の優勝チームは秋田小坂銅山である

磐城　志賀・山本　高田・鹽田
入山　原・佐藤　宮城・板橋　橋・長谷川
古河　安田・木田　石井・田中　荒川・大石

平窪辯論大會

平窪

陸揚道路 工事認可 愈々近く起工

縣當局に認可申請中の小名濱町漁業組合前漁獲物陸揚道路鋪裝工事は二十二日附で認可され今二十五日平土木監督所に通達されたので近く着工するが竣功は來月

リンデー機の壯擧に 吉田技師(平町出身)の大活躍
本邦發動機界の權威として 應急品を携帶根室に急行す

リンデー機の應急修理品を携へて根室に急行した西川航空官一行四名中に加はつた本邦發動機界の權威中島製作所技師吉田四郎氏(平町白銀町出身の海軍特務大尉)一行は一昨廿三日午後九時半厚岸(あつけし)に到著、直ちに根室の航空官と電話で打ち合せた

吉田技師は五十二歲の老齡にも拘らず疲れの色もなく根室まで夜道二十餘里を自動車で一氣に飛ばそうと交渉したが厚岸にあるたゞ一台のトラックの運轉手も熊に襲はれるからと恐れて出て吳れぬため遂に斷念し雨の音を聞きつつ眞龍の五味旅館に〃躁の一夜を明かすことになつた、昨廿四日午前十時十三分根室に到着、リンデー氏に一切の修理品を見せ不完全品を取換へ最後のコースに故障無き樣萬全を期して劃期的征空の壯擧に對し國際的の一大寄與をなす處あつた

踊りの三晩は 乘り入れ御法度
＝盆中の混雜を見越し 自動車運轉區域制限＝

た盆は迫つた。既に藍の香高い絆纒まで作つて其日の來るのを待つてゐる若い衆も心許ない昨日來の雨空を氣遣つてゐるが慣例の松焚やら町內數ヶ所の櫓の仕度やらで盆氣分は漸く本格的に脂が乘つて來た其筋では天候さへ恢復すれば例年同樣の一大雜踏を呈すると云ふ見込の下に二十七日の十四日夜から三日間午後六時から十時迄貸切自動車を除き左記を發着點とし其以外の運轉を禁止する事になつた

(四倉平間) 立町入口
(江名小名濱間) 月見町
片倉製糸工場前
(湯本平間) 長橋橋畔
(好間澤渡平間) 鍛冶町
縣社前
(赤井小川平間) 才槌小路元松崎車庫前

平町新風景
留置場文學
灰色の壁に書かれた 一代の著作斷片

言論の自由ならぬ世に於て胸中の鬱憤を晴さんが爲に時の政治や風俗に對して痛烈な諷刺を加へた所謂落首なるものが既に平安朝時代から行はれて今日に於ける新聞紙の一過程をなしてる以上留置場の厄介になる程の人達によつて崩れかけた廢墟の白壁の樣なそこの灰色の板壁に黑もじの尻で瓜の先で、而も哲學味の横溢した樂書きがされてある事は正に肯綮に當る存在なんです。

0

平署の留置場內へ入れて貰つて高い窓からさし込む日の光を頼りに其處の板壁から朧氣な文字を拾つて見ませうか。場所柄勿論一高の便所にあると云ふ樣な明るいユーモラスなものは殆ど絕無で何れも詠嘆的ならずんば呪咀的な或は改悟の情念が犇々と表現されてるのが多いんです。

0

今樣ジョン、バンヤンの天路歷程には大体次の樣な內容が盛られてあるんです餘計な註釋抜きで竝べて見ませう。

A。私の生活を支配するものは末梢的神經丈けです只そこはかと悩みそして狂ほしむのみ、吁自己濟度の方法もがな

B。——母は故鄕へ俺は留置場へ

C。一切空

0

D。今度でS亭のK子の顏も見納めだ

E。人生僅か五十年、目前の快樂を以て(後略)

F。人の世に人と生れて人の道、外れて通る人ぞ悲しき

G。法律に死すとも道德に生きよ

H。父兄弟妹許して下さい、最後はたゞ死あるのみ、僕は死んでお詫びします

0

若し夫れ南町を飲み廻つた連中が釋放待つ間の暇潰しに書き摸つた自棄氣分とエロティシズムのカクテルに至つては鹿爪らしい警察官も思はず破顏一笑を禁ずる能はざる底の傑作も少くない、と云ふからそれが門外不出である丈けに迚も愉快なんです。

興行物受難時代
當面の切り拔けに就て 心膽を碎く經營者

民衆娯樂の王座を占むる映畫館も打ち續く不況のため觀客が減切り落ちて此程平署へ屆け出た管內常設館去月中の成績は

區分	大人	小人
平館	二、〇〇九	七、七三四
有聲座	四、七二五	二、八六六
三函座	一、四五六	一、一三六

合計二萬八千九百二十六名入場料總計五千七百八十五圓に過ぎずこの中から月々多額の人件費をはじめ興行稅三十圓、町稅二十圓、其他動力費、フィルム代、雜費等を差引けば何れも欠損狀態で從業員の給料が數ヶ月に亘り滯つてゐる向もあり館主側では各々不入りの對策として宣傳並に映畫の選擇に腐心し當面の難關切り拔け策に就て心膽を碎いてゐる

電柱折損◇乘客負傷
昨日四倉街道の自動車事故

平町四丁目平四倉間組合自動車部運轉手門馬己代吉(三)が昨二十四日午後二時頃乘客四五名を乘せ平町から四倉町に向つて疾走中大浦村狐塚地內國道に差し蒐つた際操縱を誤り路傍の電柱に衝突して之をへシ折り乘客平町大工町一四齋藤和助は之が爲背部、上膊部、足部等に全治一週間の傷を受け四倉町木村醫院で手當を加へた

投檜 寄書歡迎

藝妓と盆踊り

◇旅愁を忘れる爲に一晩呼んだのが病みつきとなつて遂深みにはいつた相手の藝者から、心ゆく迄踊つて見度いからお盆の三晩丈け

○本宛玉をつけて吳れと云ふ要求を受けた

◇僕は前云ふ通り旅の者であるから平花柳界の習慣を知る程の通人では無いが三十分六十七錢の生產力ある人間を假令お盆だからとて只遊ばせない抱え主の心持ちは大体に於て推測出來る

◇併しだ。年に一度の開放に算盤で彈き出した通りの玉代を當人に支辨させる事はどうか?。しめしがつかなくなるからと云へば其れ迄だが其間一寸考慮すべき點がなからうか

◇旅烏の提案は聊か僭越の感あるが僕の私案としてはそうした場合玉代は所謂卸し値で半減位にすること

た、そうすると彼女は思ふ存分翼を伸ばして踊りぬいてそこに他日の活躍に備ふるエナヂーを醒釀する

◇從業員慰安と能率增進と一石二鳥の抱え妓優遇案書くの如し此際敢て大方の御含味を乞ふ(平町滯在旅烏生)

境の踏切りに轉がる 身許不明の轢死男
所持の猫いらずで 自殺と判斷つく

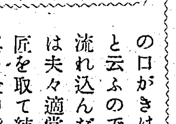
內郷村御台境地內踏切に二時四十分平着の下り準急に引つ掛つたらしい胴体が眞二つとなつた男の轢死体を今曉五時頃通行人が發見平署に屆出たので橋谷田部長が出張檢視したが綿セルの單衣を着た三十歲前後の職人態の男で所持の猫いらずにより覺悟の自殺と見らるる外身許を知るべき遺留品も無く同村役場で一先づ假埋葬に附した

留守別邸の怪 ＝怪しと睨んだは 精神異狀の小娘＝

四倉町本町東通り白井別邸の留守中の戶締りを外し一週

る少女あるを引つ捕へたが右は附近に住む佐藤留吉娃大和田トシ子(二〇)で精神に異狀あり前後七日間も同所に寢泊りしてゐた事判明將來監視を怠らぬ樣注意を加へて家人に引渡した

艶罪黑白



◇平藝者で盆踊りのステツプが踏めぬとあつては時節柄一人前の口がきけないと云ふので其後流れ込んだ連中は夫々適當の師匠を取て練習の眞つ最中。お蔭で古務連は謝禮の氷水と水蜜で悉皆腹をこわしちやつた。とは嘘のヨなまこと

◇さよ子十九歲昨日久本からお披露目〻水戶でオナラちやないよ。鳴らした妓だつてんだよ。直ぐ其の方角へ持つて行くんだから!』

○○○○○○

四倉署盆の貧困者救濟の人事相談所では同町內新町七戶、仲町七戶、本町六戶合計二十戶の貧困者に對し今廿五日夫々救濟をなした

……豫告……

次回講談 女長兵衛
斯波南叟演 (魚崎潮挿畫)

女長兵衛は會津の家老の落胤だつたのが仇で環境の迫害は弱い女を殺そうとする、止むに止まれず劍と俠とに依つて其の身を守る事となり、稍名が知れて來ると、更に新しい敵が多く出來た、旗本の横紙破り白柄組の水野十郎左衛門等を始めとし、太い毛臑に尺八の威勢を見せる町奴、堂々町道場を張る一流の師範など、其相手は容易ならざるものゝみだが、何時も第一線に立ち電光石火の働きを見せる、鼠山には恩師の仇の大敵を倒し、駒形の渡しには付覘ふ劍客を水葬にし、旗本屋敷に斬り死の活劇を演ずる等等、等の變化百出して、毎回爽快味を横溢させる、可憐な女の男諳は讀者歡呼狂熱の中心たること疑ひなし。

(百八十回)

亡母フヂ儀新盆の處時節柄提灯其他御寄贈御辭退申上候 敬具
八月二十五日
二丁目元福見屋 鈴木善七

亡父仁太郎儀神葬祭の爲新盆不仕候に付提灯等の御寄贈御辭退申上候
八月二十五日
谷口長治

盆納凉興行此の名畫で此の破格料金

『舊』十四日 十五日 十六日 十七日 四日間 晝夜 破格料金 二十錢

日活傑作時代劇の雄 山本禮三郎・山岡滿智子……
俠骨 忠治の正体 全
赤城を落ちて信刕路に秋風落莫世に語られざりし鬼石の桐太郎が血と涙の悲しくも美はしき譚り

NK大作現代映畫…… ニッポン三部曲の完……
日本孃 ミス・ニッポン 全
入江たか子・山本嘉一 夏川澄子
快適聰明スマートにして颯爽たる彼女をミスニッポンと呼ぶ然し其の戀愛觀は實に非現代的である。

NKCK嵯峨野大傑作 原作……モルナアル 飜案、監督……伊丹萬作
戲曲 金的力太郎 全
片岡千恵藏・林誠之助 衣笠淳子・佐久間妙子 其他
云ふ迄もなく獨特の凉味の內に涙一パイ

八月二十七日替り 平館

債劵。公債。兩替金融
多田井質店
平町大工町 電話五九一番

外科 內臟外科 整形外科 外科一般 醫學士 松永憲一
產科。婦人科 院長 木村寅次郎
平新川町十九
木村病院 電話一六四番